

単元案の概要

単元名: 日本企業のインターン疑似体験					
科目名	日本語演習Ⅱ	作成日	2017年1月30日	作成者	C班
学年/年次	大学3年生後期	クラス人数	20人	使用教材	レアリア、活動資料、ビジネス表現集
話題分野	自分と身近な人々、日常生活、人とのつきあい、学校生活、地域社会と世界	言語レベル	2~3	必要時間数	90分×18回
単元目標					
1. 日中のビジネス場面における振る舞い方の違いに気付き、理解し、対応できる。 2. ビジネス場面の表現・言葉・非言語行動を適切に使うことで、インターン先の企業や人々とつながる準備をする。					
コミュニケーション能力指標					
【自分と身近な人びと】 2-a. 職業について、口頭でまたは書いて紹介できる。 【人とのつきあい】 2-a. 電話の取り次ぎができる。 2-g. 人との付き合いを円滑にできるような表現を言ったり、聞いて理解したりできる。 2-i. インターネット・電話などの操作に必要な基本用語や指示を、読んで理解できる。 【地域社会と世界】 2-e. 身近な社会制度について、会話できる。 【学校生活】 2-d. (学校の)スケジュールについて、やりとりできる。 【日常生活】 2-d. その日にすることを箇条書きで記録できる。 2-e. カレンダーに書かれた予定を、だいたい理解できる。					
学習活動の流れ					
語彙・表現習得活動			学習シナリオ		
(基本会話は3年次前期までに学習済み) ビジネス用語・表現とビジネス会話(1~7コマ) ※ビジネス用語・表現: 「朝礼」「部長」「残業」など 職場生活/ビジネス特有の語彙や「承知いたしました」などの表現 ビジネス会話: 社内、社外でのビジネスの場における会話			<場面状況> ・中国の大学3年生・情報専攻(20人) ・4年次に日本企業へインターン参加。 <活動の流れ> 別ページ参照		
評価活動					
形成的評価			総括的評価 ※別途ルーブリックを作成してください		
・1回目のタスクシート ・グループ発表(ドラマの紹介) ・劇の練習時の様子・態度 ・振り返りシート(気づきやインターンへの抱負について)			劇の SCRIPT、劇の発表		

学習シナリオ	
コマ数	<活動の流れ>
1～7	<p>【プレコミュニケーション活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンとは何か、目的や心構えなどを学ぶ ・インターン先について知る(ネット、パンフレットなどで調べる)→グループで共有→全体で共有 ・会社の1日の流れを知る <p>《手段》</p> <p>中国の会社:親・身近な人に聞く 日本の会社:昨年度インターンに行った先輩・教師・日本人留学生に聞く</p> <p>※先輩数名に来てもらい、インターン終了後に記入した「インターンシップ振り返りシート」を元に、先輩が感じたプロジェクトとインターンとのつながりについて報告してもらったり、日本の会社の1日の流れや会社の様子、生活など体験談を話してもらう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス用語・表現 ・ビジネス会話
8	<p>【コミュニケーション活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教師が選んだ日本のビジネスドラマを見る。 2. ドラマを見て、日本のビジネス場面における振る舞いへの気付きや感想を言う。 (グループディスカッション→全体で共有) 3. タスクシート(場面ごとに使用されている表現や非言語行動について)をもとにもう一度ドラマを見て、シートに記入する。
9	<ol style="list-style-type: none"> 4. 前の週のドラマについてグループで話し合い、タスクシート完成(場面・言葉・非言語行動)。 <p>※タスクシートは提出</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. ドラマに出てきた場面で使用されている語彙・表現を確認→ロールプレイ <p>※宿題:グループでドラマ探し(ビジネスのワンシーン)</p>
10	<ol style="list-style-type: none"> 6. グループで選んだドラマ(ビジネスのワンシーン)の状況説明を考える。 7. ドラマの概要発表+ドラマ視聴。見ながらタスクシートにメモを取る(中国語可)。 8. グループで気付きについてのディスカッション。
11、12	<ol style="list-style-type: none"> 9. 各グループが選んだビジネス場面について、シートをもとに表現や非言語行動の気づきを発表、まとめ、練習(ロールプレイ)する。(必要に応じて教師が新たな表現も教える)。
13	<ol style="list-style-type: none"> 10. 今年度インターンに行った先輩の体験談 <p>※言語・非言語行動の違い、会社における異文化体験などについて、学生が質問したいことを事前に先輩に伝えておく。</p> <p>※先輩が記入した「インターンシップ振り返りシート」も活用する。</p> <p>※授業や日々の学習を重ねて出てきた「不安や心配」について、先輩に相談する時間も設ける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 11. グループで劇のシーンなどを決める。
14	<ol style="list-style-type: none"> 12. スクリプト作成
15、16	<ol style="list-style-type: none"> 13. 劇の練習(録画し、発音、ふるまい等のチェックもする) 14. 発表の仕方(導入部、劇の状況設定・内容のまとめ/説明、終結部)の練習
17	<ol style="list-style-type: none"> 15. 劇の発表(録画する) <p>今年度インターンに行った先輩にも来てもらい、コメントシートを書いてもらう。また、来ることができない先輩にも見てもらうために録画したビデオをFacebookの非公開ページ等を利用して共有し、そこにもコメントを書き込んでもらう。</p>
18	<ol style="list-style-type: none"> 16. フィードバック 17. 授業の振り返りとインターンに向けての抱負 <p>※4年次のインターン終了後には、「インターンシップ振り返りシート」を用いてふり返しを行う。</p>

3×3+3 分析表

	言語領域	文化領域	グローバル社会領域
わかる	<ul style="list-style-type: none"> ・会社にあるもの、ビジネス特有の語彙、表現が理解できる ・社内・社外でのビジネス会話が理解できる ・発表で使う日本語が聞き取れる ・日中のビジネス場面で使用される表現の違いに気づく 	<ul style="list-style-type: none"> ・日中それぞれの会社(ビジネス)について知るとともに、その違いに気づく 	<ul style="list-style-type: none"> ・中国と日本をつなぐ人材となるという意識をもつ ・社会で働くという自覚をもつ ・社会の一員として社会的責任をもつことの重要性を理解する
できる	<ul style="list-style-type: none"> ・会社にあるもの、ビジネス特有の語彙、表現が使える ・社内・社外でのビジネス会話における適切な日本語が運用できる ・適切な表現を使って発表できる ・ビジネス場面においてコミュニケーションを成立させるために非言語ストラテジーが使える 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス場面における日中の文化の違いを再認識し、日本のビジネス場面に適用できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドラマ、劇を見て、言葉、振る舞いを客観的に解釈、分析し、改善をはかることができる ・ドラマ、ビデオを活用し、日本のビジネス場面を理解して劇の改善につなげる
つながる	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ作業(スクリプト作成、発表準備)を通して、意見交換を行い、双方が合意できる考え、価値、気持ちを探る 	<ul style="list-style-type: none"> ・親、教師からの話、先輩の体験談を聞くことで認識した異なる価値観、様々な考え方などを調整し、ビジネス場面における新たな共有価値を創造する 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室内での学生同士や教師との関わりだけでなく、インターネット等の媒体を積極的に活用しながら、先輩や親といった教室外の人とのやりとりを通して、日本社会、中国社会とつながる ・(インターン終了後)、学生が本プロジェクトとインターンとのつながりを振り返り、その結果やインターンで得た知識、経験を後輩に提供することで、翌年度の活動へつなげる
三連携	<p>【学習者】既知情報・IT を生かして調べる、好きなドラマを通して学習を深める</p> <p>【教室外】日本のドラマを検索する、家族・先輩・後輩と情報を共有する、インターン先の人々と交流する</p> <p>【他教科】演劇、情報、これまでに学習した日本語</p>		

総合的評価のルーブリック

→レベル	目標以上に達成 (4点)	目標を達成 (3点)	目標達成まであと少し！ (2点)	目標達成まで努力が必要 (1点)
↓評価要素				
劇の内容※1	学習していない、表現なども使っ て、一貫した(段階を踏んだ)流れ で場面設定ができています。 (お礼を言う前に、前置きを言う、な ど)	授業の目的にあった場面が設定さ れ、学習した非言語行動、言語行 動を適切に使い、流れに不自然さ がない。	設定した場面と使用されている表現 が整合性に欠ける。	授業の目的にあった場面が設定さ れていない。
発表の構成	導入部にはじまり、劇の内容のまと めがはっきりと説明されていて、終 結部までうまく構成されている。聴 衆が意識されている。	導入、まとめ共に内容が過不足なく 表現されており、なおかつ、聴衆が 意識されている。	導入部、まとめのいずれかに、不十 分なところがある。	導入部、まとめが意識されておら ず、聴衆を全く意識していない。
パフォーマンス A (非言語行動)	自然な非言語行動が取れる。	多少の不自然さはあっても、日本人 に不快をあたえない。	時々不快に感じられる行動が見ら れる。	非言語行動に注意、意識が向いて いない。
パフォーマンス B (声の大きさ、発音、 スピード)※2	よどみなく滑らかに話が進んでい る。発音も非常に正確で、意味が完 全にわかる。はっきりした大きな声 で話し、よく聞き取れる。	ときどき躊躇するところなどはある が、発表を全部終えることができる。 完全な発音ではないが、コミュニケ ーションには全く問題ない。意味は ほぼ問題なくわかる。声もはっきりし て、聞きやすい。	ときどき話が途切れ途切れになっ たり、スピーチがおそくなったり、言い よどみ、沈黙がある。発音の問題の ために意味がわかりにくいところ がある。声が小さくなる場所もあり、聞 きとりにくいところがある。	話が途切れ途切れで、長い沈黙が あったり、言いよどみがあったりし て、内容が理解しにくい。発音の問 題が多く、意味がよくわからないと ころが多い。声が小さくなったり、ぶ つぶつ口のなかでつぶやくようなと ころもある。
理解のしやすさ※2	文法、語彙※3、発音に多少問題は あるが、言いたいことは完全に理解 できる。	文法、語彙、発音の大きな間違い がときどきあり、理解しにくいこと はあるが、タスク達成の障害にはな っていない。	文法、語彙、発音の重大な間違い のために、ときどき理解できないこ とがある。	文法、語彙、発音の問題が多く、理 解できない部分が多い。

- ※1 劇の内容のみ、スクリプトで評価する
- ※2 パフォーマンス B と理解のしやすさについては個人評価とする
- ※3 スクリプト提出時点で文法や語彙の修正を行っているため、この評価ではスクリプトとの祖語という視点で個人評価を行う。

※このフォームは要素分解評価の一例です。評価要素の数、評価レベルの設定は適宜変えてかまいません。

作り方の詳細については『外国語学習のめやす』 pp.068～「ルーブリックによる評価とその作り方」をご参照ください。